

# いっしょにしよう！フードドライブ

D4班



## 背景

- ・日本国内で年間約600万tものまだ食べられる食材が廃棄されている
- ・経済的理由により支援を必要としている人たちがいる
- 私達も参加ができるフードドライブで問題解決に携わりたい！



## 仮説

フードドライブを行っていき、取り組みをより身近なものにすることで、私達でも支援を必要としている方々の力になれる、ということを広めていけるのではないかと

## 調査・実験の方法

1. 活動前の仙台三高におけるフードドライブの認知度及び利用率について全校生徒を対象としたアンケートを行う
2. 校内でフードドライブを一定期間実施する  
7月19～21日と11月8～12日の2度校内でフードドライブを行う
3. 実施期間終了ごとに同様のアンケートを再度行いフードドライブの実施前と結果を比較・考察する

## 結果

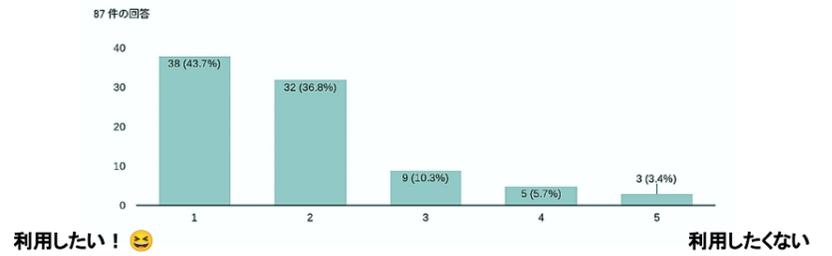
1回目(7/19～21実施)  
8kg集まりました



2回目(11/8～12実施)  
今回は旗でアピール！  
23kg集まりました

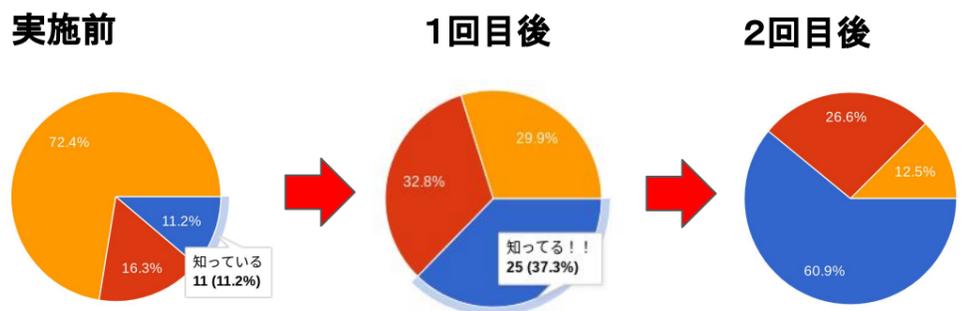


## ・食品ロスを減らす取り組みへの意欲 (5段階)



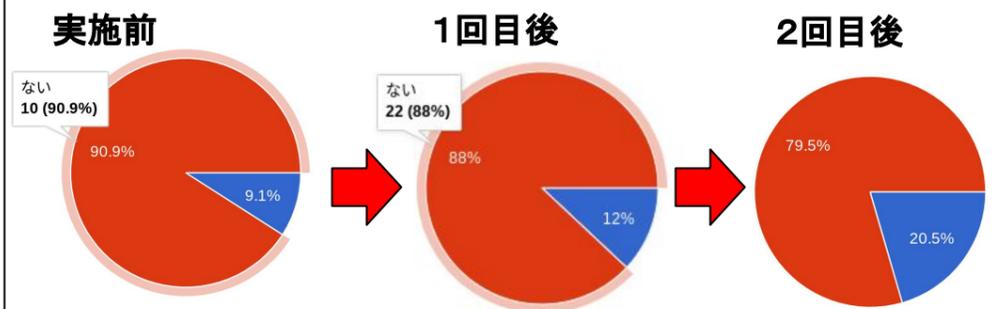
食品ロスを減らす取り組みを利用したい人の割合が約8割となった

## フードドライブの認知度



知っている人が全体の1割から6割以上となった

## ・「知っている」と回答した家庭の実際の利用率



利用率は徐々に上昇！

## 宮城県内で広がるフードドライブ

- ・スーパーで購入した商品をフードドライブとして 寄付ができる**スーパー**
- ・寄付する方々とも支援を受ける方々とも対話を大切にする**団体**
- ・身近な店舗に寄付ができる**コンビニ** など多数

## まとめ

- ・2回のフードドライブで校内での知名度アップ
- ・周知活動の期間は長く、多くの方法で行うべき
- ・宮城県内各地で食品の寄付が可能
- ・フードドライブで支援を受けることも食品ロス問題解決につながる



校内でのフードドライブ活動・食品ロス問題への取り組みはますます必要となる

## 参考文献

- ・セカンドハーベスト・ジャパンホームページ  
<https://2hi.org/>
- ・[1]消費者庁ホームページ 食品ロスについて知る・学ぶ  
[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_policy/information/food\\_loss/education/](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/education/)

## イラスト

- ・いらすとや  
[https://www.irasutoya.com/2016/04/blog-post\\_480.html](https://www.irasutoya.com/2016/04/blog-post_480.html)